

(3)

食糧
問題
に関する
参考資料

0349

RE'-0041

0247

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

E'3.0.0.1-8-1

朝鮮米輸入促進ニ関スル件 (ニ〇二二八) (貿易)

朝鮮ニ於ケル米、~~進~~集荷不振、現況ニ鑑ミ集荷ヲ促進シ以テ日本向ノ輸出ヲ容易ナラシメンガ為ニ集荷ニ関スル具體的ナル一私案ヲ提示ス

一 集荷ハ極力民間業者ノ活躍ナル活動ニ依ル促進ヲ企圖シ努メテ統制ヲ避ケ自由收買^買ニ依ルコト最モ効果的ナルベシ、即チ日本向輸出米ハ輸出港(仁川、群山、木浦、麗水、釜山等)ヲ根據トシテ大手業者ヲシテ相當高値ヲ以テ仲買人ヲ駆使シ積極的ニ内地ヨリ買付シムルコトス。

輸出港ノ大手業者ハ朝鮮人ノ精米業者及米取引業者等ノ有力ナル者ヲ起用シ之ニ対シテ金融機關ヨリ收買^買資金ヲ潤沢ニ供給ス

ニ 従来ノ朝鮮米ノ集荷ニハ日本人精米業者等が多年從事シ来リタルモノニシテ之ガ知識ヲ利用スルコト差当リ、集荷促進ニ極メテ有効ナルハ言ヲ俟タサル如クナルヲ以テ之等業者ヲ各輸出港ニ派遣シ大手業者ノ集荷ノ顧問トシテ利用ス。右日本人業者中ヨリ嚴選セラレタル者ニ付特ニ渡鮮ノ上鮮内ノ朝鮮人輸出関係業者ノ下ニ業務支援ニ當リ得ル様米軍当局ノ特別ナル許可相受度尚右渡鮮日本人ガ直接輸出業務ニ就テ利潤関與スルコトナキノミナラズ在鮮米軍當局ノ指示ニ反スル如キ策動ナキハ勿論ノコトトス。

RE'-0041

0248



三日本、朝鮮米輸入依存度大ナル現状ニ於テ右ノ輸入価格ニ因
シ積極的ニ抱泥スル意趣著ク有スルモノニハアラズ寧ク口次中ニ
依リテハ成行値ニテモ應諾シ上輸入量ノ確保ヲ期シ度キ
次才ナルガ假ニ当方、目標ヲ提示スレバ左ノ通りナリ
朝鮮移去港 F.O.B 汝朝鮮白米合格以入正味六〇時詰一ヶ
当一ニ〇四即以包裝込一能当六〇〇〇四右目標価格算定ノ
基礎左ノ通りナリ

- 一 粗買入価格 一以正味九〇斤一 五〇〇〇
- 二 加工費、運賃、保管料、手数料其、他合計 一三〇〇〇
- 三 合計 三二五〇
- 四 右六〇時詰当一ニ〇〇〇
- 五 右七〇時詰当一ニ〇〇〇

備考
粗一以九〇斤入一当、朝鮮米需品会社買入価格八割下最低

三二四ニシテ最高五〇四迄及テ目標トシ居ル趣ナリ以テ一應右
ヲ五〇四ト推定セリ
尚粗一以五〇四トセハ前記白米 F.O.B 価格八一以是四四時當
一三四四トナリ
四 輸入朝鮮米ノ価額ニ対シテ決済、多日本ヨリ輸出セラル物資ノ
朝鮮内ニ於テハ配分ニ関シ素ヨリ遂一容場セントスルモノニ非
ザルモ該輸出品ノ大部分穀類輸入量確保ノ緊急且重大機
ニ鑑ミ國內需要及テ極度ニ抑制シタル上輸入量ヲ計リタル
モノナリ以テ日本向、米、輸入促進ノ為、見込物資トシテ使用
スルモノトス例ハ之ヲ朝鮮生流米需品会社ニ引渡シ会社ハ之
ヲ米、集積担当者ニ交付集積、見込物資トシテ有効ニ活用
セシム

食糧輸入
情報 4.

朝鮮
事情

(三〇、三三、三八)
44,000,000
18,272 - 8,000,000

- 見送り物資
- 肥料需要
- 農具
- 古什 (人絹、洋布)
- 食糧
- 白糖 (糖、糖、糖)
- 物価騰貴

渡辺前朝鮮食糧管理団理事長
塩田前朝鮮植植督府鉱工局長
談

生活品会社

朝鮮食糧管理団理事、生活品会社、下鮮人職
業、以て運送管理、トナリ名稱、朝鮮生活品会社
ト改稱、ト主要食糧、生活品、統制、統制、トナリ
運送、トナリ、買取、買取、買取、買取、トナリ
輸送、トナリ、買取、買取、買取、買取、トナリ

生活品会社、準備工作

全社、朝鮮銀、及、通貨、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

見送り物資、必要

生活品会社、改稱、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

生活品会社、準備工作

全社、朝鮮銀、及、通貨、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

見送り物資、必要

生活品会社、改稱、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

生活品会社、準備工作

全社、朝鮮銀、及、通貨、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

見送り物資、必要

生活品会社、改稱、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、
トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、準備、トナリ、

次ヲ渡地前朝鮮食糧管理團理事長ヨリ附紙朝鮮事情殊ニ緊要
ニツケ向年十ニ説明アリ

米、輸輸入ニヨリヨリ日本人が赴カザルを得テ、總司令部が許可セザルヲ以テ、
向テ、^時寄セルルが得ルヲ以テ、^後朝鮮生活品公社ト改稱
サレタリ、テアリマスガ、コレヲ無カテ、^後朝鮮生活品公社ト改稱
ベシ政府が未カ無ク、テアリマスガ、免ニ角之ニ、^後朝鮮生活品公社ト改稱
家出身の素人テアリマスガ、^後朝鮮生活品公社ト改稱
新長ト米人一位ヲ、^後朝鮮生活品公社ト改稱

次、貿易、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
之ニ付、渡地、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
ルカ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
可能ナルベク、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
意見有リ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
還テ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
テ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
等、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス

次ニ朝鮮米ノ輸入ハ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
トテ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
ハ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
取付クベシ

又、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
方法トニ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
其、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
餘、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
本年九月頃、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
ニテ、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
合同、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス

尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス
尙、^後朝鮮米輸入促進ニ関スル件、ヲ提言ス

RE'-0041

0252

輸入促進協議會要旨
 昭和二十一年一月八日午後三時ヨリ
 於終戰連絡中央事務局會議室
 原三郎三博長
 ビンブル、朝鮮ヨリ帰還セル日下報告書作成中ニテ面会シ難シトコトナリ
 本會談ス、

領付物

輸出入實績(二月二十三日現在)

| 輸出品目 | 仕向地 | 数量 |
|----------|-----|----|
| 「ビッチ」 | 朝鮮 | 二〇 |
| 蠶卵 | 朝鮮 | 六〇 |
| 枕木 | 朝鮮 | 三〇 |
| 紙幣用紙 | 朝鮮 | 三〇 |
| 電氣「ヒーター」 | 朝鮮 | 三〇 |
| 「ダイナマイト」 | 朝鮮 | 三〇 |
| 電氣雷管 | 朝鮮 | 三〇 |
| 輸入品目 | 仕向地 | 数量 |
| 鹽 | 朝鮮 | 二〇 |
| 小麥粉 | 朝鮮 | 二〇 |
| 磷礦石 | 朝鮮 | 二〇 |
| 「タビオカ」 | 朝鮮 | 二〇 |

0350

RE'-0041

0254

1948-12-20
 28/1
 食糧輸入問題ノ現段階、見透シ及對策
 1948.12.20

0352

石(石)油
 海(海)油
 燈(燈)油
 類(類)油
 (二)月
 現(現)境
 在(在)
 同(同)本
 國(國)

一 五八
 二 六四
 三 二八
 四 一七
 五 一七

0351

RE'-0041

0255

目次

第一、食糧輸入問題ノ現狀及對策

第二、GHQ、CLO間ノ手續手續係ノ關係

第三、華府方面ノ情勢

第四、GHQノ券團氣

第五、朝鮮

第六、臺灣

第七、印度

第八、シヤム

第九、南洋羣島

第十、其他

第十一、對策

第十二、總論

第十三、食糧輸入ノ徹底の促進

第十四、食糧輸入ノ徹底の促進の活用

0353

食糧輸入問題ノ現狀及對策

(一) GHQ、CLO

第一、GHQ、CLO間ノ手續手續係ノ關係

(一) 終取直後GHQ側ヨリノ慈源モアリ昨年九月二十一日附差當

リ二〇一二月ニ輸入ヲ希望スル食糧物資ニ付他ノ棉花、石

油、石灰、鐵礱石等ト併々左ノ輸入要請數字ヲ提出

穀類 一、五〇千噸

砂糖 一、〇〇千噸

油料子實 三、〇千噸

(鹽) 二、七〇千噸

之方見返リトシテハ差當リノ輸出可能物資トシテ左ノ數字ヲ

提示

生糸 四、六千俵 羽二重 五、〇〇〇千米

其ノ他茶、賣藥等若干量

0354

RE'-0041

0256

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(二)右ニ基キ「クレイマト」ヨリ幾日船腹支援困難ノ指撞ト共ニ先ツ支拂手段ノ確立ヲ要スベキ旨ヲ指示セラレ輸入物資ハ之ヲ最少限ニ止ムルヲ要スルコト明瞭ト爲リタルヲ以テ更ニ一〇月一日附特ニ緊急ヲ要スル必需物資ノ輸入要請ヲ左ノ通り提出

米 一〇〇千噸 (佛印ヨリ)
 小 麥 一〇〇千噸 (合衆國ヨリ)
 (鹽 一〇〇千噸) (石油 約一〇〇千噸)

之が見返リ物資ニ付テハ前回提示ノ數量ニ依リ生糸・羽二重ニ止ムルト共ニ支拂決済方法ニ關シ爲替消算勘定ノ設定・一時的借越ノ容認等ノ我方要望ヲ併セ申入ル

(三)右數次ノ折衝ノ結論トシテGHQヨリ正式覺書ヲ以テ

一〇月九日附國民生活必需物資 (The maintenance of a minimum standard of living for the civilian population) 輸出入要請ヲ指示

輸入許可ニ關スル基本方針ノ指示ト共ニ右生活必需物資輸入ニ先行スベキ見返リ物資ノ輸出確保ニ關スル諸種ノ國內的手段及輸入物資ノ一元的受入配給ニ關スル責任機關ノ確立並ニGHQノ與ヘタル制約下ニ其ノ可能性ヲ綜合的ニ説明スル一九四六曆年度ノ輸出入計畫ノ提出等ヲ指示

一〇月一〇日附各輸入物資ノ正式輸入許可申請ノ際ハ夫々其ノ消費、輸入及在庫實績、國內生産見込、用途、國內配給方法等詳細ヲ極メタル説明ヲ具備スベキ旨ヲ指示

0356

0355

(四) 右一〇月九日附録ニ基キ先ツ一月九日附一九四六食糧年
 度我國食糧計畫(第二回)ノ政府發表一九四五年度米收穫推定
 數字四、二九七〇千石ヲ基礎數字トシテ採用シ一九四六食糧年
 度中三、〇〇〇千屯ノ食糧輸入ヲ必要トシタルヲ以テ現行
 一般市民配給量ニハ七五基準ヲ維持スルコトヲ得而モ此ノ場
 合國內産米ノ政府買入ハ概ネ此ノ三月頃迄ニ計畫ノフルバ
 セント達成ヲ操作上ノ前提條件トセルモノ、今本食糧計畫中
 ニ提示セル數字ニ基キ輸入量ノ多寡ト國民ノ一人一日當リ平
 均的ニ攝取スルコトト爲ル綜合的食糧熱量トノ相關係ヲ圖
 表示スレバ別紙圖表ノ如シヲ提出、尙一九四六曆年度ニ依
 ル食糧關係輸入要請數字ハ左ノ如シ
 穀類 三、三九〇千屯(内三、九〇千屯ハ一九四六年一一一
 二月期間ニ付期待ノモノ)
 油脂 四〇千屯
 砂糖 二〇〇千屯

0357

コブラ 四、三、四千屯 (飼料 四〇千屯)
 (燐鎂石 三、四〇千屯) (塩一、〇五〇千屯)
 次イデ十一月一五日附食糧關係以外ノ輸入要請物資棉花、石
 油、石炭、鏡鎂石、非鐵金屬ニ付彙類ヲ提出而シテ右全輸入
 要請物資ノ見込價額合計ハ併セテ提出セル左ノ如キ要請備給
 見込料ヲ含メテ一應三、四〇六、三、七〇千圓ト概定セラレタリ、
 一九四六年一一三月 三三〇千重量屯
 四一六月 六七〇〇〇
 七一九月 六七〇〇〇
 而シテ右輸入要請ニ對スル見返リ物資トシテ提示セル各物資
 ノ價額見込ハ一應當時ノ國內適正價格ヲ見積リノ基礎トスル
 トキハ、
 在庫品 四、七、七、九、六、七千圓
 一九四六年上期仕上り品 五、五、九、〇、三〇千圓

0358



0359

下期 一、五〇五、五二二〇〇〇
 總計 二、九四二、五二一〇〇〇

ト算定セラレタル處輸入品見積り復額ハ低キニ失スル虞レアルヲ以テ總價額ノ二〇%ヲ加算シ輸出品ニ付テハ生産ノ不振、先方需要ニ關スル見込違ヒ等ノ虞レアルヲ以テ總價額ノ三〇%ヲ差引キ安全率ヲ見タルバランスヲ推定シ

輸入 二、八八七、六四四、千圓
 輸出 二、〇五九、七六五、〇〇〇
 差引 八二七、八七九、〇〇〇

ノ支拂超過ヲ見込ム結論ヲ妥當トシ之ヲ提示セルヲ以テ之ガ補填トシテハ金銀ダイアモンドヲ支拂手段ニ充當スルコト並ニ決濟方法上一時的借越ノ容認方要請セリ

而シテ右貿易計畫ハ計畫中ニ織込ミタル輸出産業用原材料トシテ國內資源又ハ國內在庫ノミナラズ輸入要請物資ノ使用ヲ

0360

豫定ハ相互依存因果關係ヲ包藏スルモノナリ

尙右十月九日附電ニ基クGHQノ指令内容ハ未ダ必ズシモ全部的ニ充足セラレ居ラズ貿易屬ハ形式的ニ開應セラレタルモ實務ノ活潑ナル開始ヲ見ルニ至ラザルノミナラズ我方ニ於テ所謂貿易ノ「エーヂェンシー」ノ解釋ニ付GHQ當局ノ眞意捕捉ヲ誤リタル嫌ヒアリテ其ノ眞意ニ副フ爲ニハ更ニ今一度貿易屬改組ノ要アリ申認メラルト共ニ（從テ輸出入決濟手段ニ關スル機構モ未解決）指令中ニ要求セラレタル輸出资源ノ國內保全方ニ關スル計畫ニ付テモ未ダ成案ヲ得ルニ至ラザルモノナリ

RE'-0041

0259

8

(四) 石一〇月一〇日附覽書指令ノ説明様式ニ則ル各輸入要請物資
 毎ノ正式輸入許可申請書ハ一月八日附穀類、油脂、一〇ブ
 ラ、燐銻石、砂糖、棉花、鹽ニ付之ヲ提出シ一月二十六日
 附飼料、石油ニ付之ヲ提出セリ(其ノ他ノ物資ニ付テハ未提
 出)

(六) 其ノ後G H Q係官ヨリ右我方ノ提出セル貿易計畫ハ輸入品價
 額ヲF O Bヲ以テ算出シナルモ之ヲC I Fニ訂正スヘキ旨並
 ニ輸出品價額算定基礎ノ説明殊ニ一九三七年價格トノ比較表
 提示ヲ求メ來リタルヲ以テ夫々解答作成ノ上前者ハ一月一
 八日附後者ハ一月二十四日附G H Q當局係官ニ之ヲ手交

(七) 右既提出貿易計畫ノ輸出實施計畫ヲ一、九四六年一月三
 月ニ於ケル輸出先別輸出可能物資表ヲ作成し一月二十四日附G
 H Q當局係官ニ手交一本表ニ付テハ更ニ十分推設檢討ノ要ア
 リテ目下再檢討中)

0361

9

(八) 以上ハG H Qニ對シ一、九四六食糧年度中三、〇〇〇千屯ノ
 食糧輸入ヲ要請セル大筋ノ手續キ進行ノ経緯ナルモ我方キ
 テハ右以外ニ凡有喫機ヲ逃サス之ヲ捕ヘ若干ニテモ食糧輸入
 ヲ實現モシムル手懸リト爲ズニ要アリキ思料シ別途正式ニ左
 ノ如キ食糧輸入要請書類ヲG H Qニ對シ提出シアリ

(九) 一月二十九日附及一月二十四日附北海道引揚朝鮮人復航船
 腹ノ利用ヲ提唱スル等ノ手懸リニ依リ石炭生産確保ノ爲メ
 食糧増配用タルコトヲ名目トシ失々一〇千屯、一〇〇千石
 ノ朝鮮米輸入許可方ヲ申請

(四) 一月二十四日附戰時中ヨリ懸案ノ「シヤム」向ケ見返り輸
 出品ノ仕上リ「リスト」提出ニ引懸ケ一、九四六年一月三
 月中ニ少クトモ四〇千屯以上ノ「シヤム」米ノ輸入許可方
 申請

0362

RE'-0041

0260

第二、華府方面、情勢

右我方ヨリGHQニ提出セル一、九四六食糧年度我國食糧計畫ハ直チニ華府ニ傳達セラレタルモ合衆國政府當局ヨリHGHCニ對シ之ニ關シ未タ何等可否、回答ナキモ、如シ(尤モGHQ當局係官、説明ニ據レバ華府ニ對スル對日輸入要請數字トシテ、GHQヨリ穀類(一九四六年一―一二月期間要請ハ之ヲ査定削除三〇〇千屯、數字ヲ提示セルカ)油脂關係、燐鑽石(八〇〇千噸ニ査定増、ト)ヲ併セ三、九〇〇千噸程度、數字ヲ回示シアルガ如キモ尙其、後第四(内ニ後述ナルガ如キ)經緯ニ依リ當方、要請内容ト異リ合衆國ヲ輸入先ニ振替ヘ大豆、米ノ輸入要請ヲモ提示セルモノ、如シ)唯熱量問題ニ付テハ、甚々GHQ迄質疑ヲ發シ來リ兩之間ニ種々照復ヲ電ネ居ルモノト認メラレ本月八日頃ニモ華府ヨリ、照會趣ニ基キ一九三六年ト一九四六年トノ熱量比較ヲGHQヨリ電信セル終結アリ然リ而シテ

0363

10

極公ケニセラレタル「パーシズ」ノ對獨逸兵方詳聲明ノ内容及右華府、GHQ間ノ熱量問題照復ノ経緯等ニ鑑ミルトキハ結局對日供給食糧ノ本格的正式決定乃至ハ卒、決定ニ付テハ、甚々ク熱量計畫方決定ノ因テドシテ考慮セラルルコトト爲ルベキガ戰時中ヨリ引續キ華府ニ設ケラレアル聯合戰、一コムバインドワツドボード一ガ聯合戰、被解散、戰敗ニ於ケル不足食糧ヲ此ノ先後順位ニ從テ如何ニ供給スルヤヲ協議決定スルモノト爲サレ居ル據昨年十一月末合衆國農務省ハ一九四六食糧年度ニ於ケル世界ノ食糧不足高ノ累計ハ三五、〇〇〇千噸ニ達スルニ對シ英國並ニ歐洲及東洋被解散國(人頭一日二、〇〇〇一ガロリ)計畫(ク)食糧不足ヲ補填スル、ミニテモ三三、五〇〇千噸程度、モノヲ要スベシト發表シ其、配分ハ結局熱量計畫ニ據ルノ外ナカルベキヲ示唆セルコト並ニ變ニ來朝セル「ボイレ」ノ賠償協議ノ際ニモ賠償決定ノ際考慮セラルル日本國民ノ一ミ

0364

RE'-0041

0261

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ニマママタンダードオブライヴィング」ト、結局國民、平均的食糧攝取量、問題ニ對シテ迅速タルコト等ヨリシテ上級ノ推論ノ疑問、余地ナキ處ナルベシ尙GHQ、ESS、輸出入係「ズイメルマン」ノ説明ニ據レバ獨逸ニ對スル食糧輸入決定ノ基礎トシテ採用セラルルコトト爲リタル嗣當配給熱量一人一日、五五〇「カロリ」ヲ以テ日本ニ對スル場合モ食糧供給ノ碎決定、基礎ト爲スコトヲGHQガ同意スルニ於テハ少クトモ合衆國ヨリ、對日小麦、供給ハ直チニ開始ヲ見ルベキ段階ニ在リト（所謂一、五五〇「カロリ」計算ヲ採リタル場合、輸入量、碎如何ニ付テハ別紙圖表参照、但シGHQハ獨自、計算ニ依リ華府宛テ人頭一口當リ、八〇〇「カロリ」ヲ計算基礎トセル三〇〇〇千屯輸入要請ヲ提示シ居ルガ如キヲ以テ此、圖表ニ據ル結論其、論ハ採用シ難シ）

次に本年食糧年度食糧輸入碎決定、際ニ於ケル更ニ今一、致命的

0365

制約トシテ聯合配給、頭初、判断ヲモ裏切リタル南半球ニ於ケル一九四五年農作物ノ早魃ニ因ル大凶作ヲ懸ガザルベカラズ「イ」(GHQ、ESS、輸出入係主任)、説明ニ據ルトキハ次

0366

RE'-0041

0262

濠洲ハ一轉シテ小麥ノ輸入國ト爲リ、〇〇千噸程度ノ食糧輸入ヲ計畫中ナル外、牛、羊モ例年以上ニ屠殺シテ之ヲ食糧ニ供シ居ル現狀(ニセ%ノ不作)。(但シ本月二十一日附星條旗紙所載UP華府電報ハ濠洲ガ印度ヲ含ム極東ニ對スル大量小麥ノ供給源タルベキヲ傳ヘ居リ未ダ必ズシモ此ノ説明ニ全幅ノ信頼ヲ措キ難キモノアリ)亞爾然丁ハ濠洲程ノ國內食糧逼迫ハナキモ些シタル輸出餘力ナク(ニ五%)
 北亞弗利ハ「アルヂェリ」。「チニニス」等ノ餘剩國ガ例年ノ如キ大陸輸出餘力ヲ喪失シ
 其ノ反面印度ニ於テハ戰時中ノ好景氣ヲ反映シ人口増加著シク食糧需要激増セルニ對シ緬甸米ノ供給力ハ戰禍ニ伴ヒ激減(孟買「カルカッタ」等ノ都市ハ既ニ大量餓死發生)自然「シヤム」米等モ此ノ方面ニ引寄せラルル傾向ニ在リ
 從テ前述熱量計算ノ結果ノ結論ガ如何ニモアレ結局ノ處計畫通

リ、〇〇〇千噸ノ輸入量ガ確保セラルルコトヲ期待スルハ絶對的不可能ト稱スベク昨年十一月初旬「クレ「マ」」西山會談ノ除彼方始メテ兩半球ノ不作ヲ明カニシテ深く日本ノ食糧輸入ニ關スル悲觀的見解ヲ吐露セルニモ徵シ我方トシテハ先ヅ此ノ冷峻ナル事實ガ戰國「本」ニ對スル所謂「ハ」ト「ド」ト「ス」ボリシ「適用上ノ「マイ」」ノ與件トシテ横ダハルモノナルコトヲ銘記シ今ヨリシテ十分内外ノ食糧施策ニ遺漏ナキヲ期スルノ要アリト信ス。
 而シテ一方GHQ、BBS、輸出係ノ「ポスト」ニ從來ノ軍人一色ガ略々一掃セラレ之ニ代ルニ前述「メイ」(U、S、O、O、前副社長)以下「ダウテイ」(U、S、O「テステイン」ダカムバニ「社長」)「フライン」。「ズイメルマン」等商取引上ノ經驗アル民間人ノ相繼イデノ來任、U、S、O、Oノ合衆國陸軍省代理商社トシテノ登場等ノ事實ニ鑑ミルトキハ日本ニ對スル食

糧供給ガ合衆國トシテ算盤上。商賣上ノ問題ナリトスル一ノ建
 前ハ華府ニ於テモ相當「ブリヅニール」セルモノト看做シテ然
 ルベク此ノ線ニ沿フテノ一昧ノG H Q 進出ト見ルコトハ誤リニ
 非サルベキカ故ニ算盤的見地ヲ離レタルU R B A ノ競争ニモ
 堪ヘ得ル余地ナキニ非ストシテ此ノ點ニ我方ノ視ヒノ著ケ所ハ
 存スベキモ唯此ノ商賣トシテノ對日食糧供給事業モ合衆國國內
 ノ反日的空氣ノ間隙ヲ縫ハザルベカラザルノ宿命ヲ有スルコト
 ハ勿論ニシテ結局果シテ之ヲ如何ニ縫フカガ我國食糧輸入ノ多
 寡乃至ハ運送ヲ決定スル鍵トモ云フベク此ノ意味ニ於テ此ノ商
 賣ハ決シテ自由齟齬ナル本來ノ商の性格ヲ具有スルモノニ非ス
 全然別個ノ動機ヨリスル合衆國ノ國際。國內政治的立場ニ立脚
 スル「ハイポリシー」ノ嚴重ナル制約ヲ蒙リツツ進止スベキモ
 ノナルコトヲ忘ルベカラザルベシ即チ如上ノ趣旨ニ於ケル妥協
 點ヲ國內輿論ノ歸趨ニ問フ爲ノ措置タルノ意味ヲ含メテ本月勞

頭合衆國陸軍省ガ前述「ハ○○」カロリー」基準ノ三〇〇〇千
 屯ノ對日輸入提唱ヲ包含セル「マツカイサー」日本統治「レボ
 ー」ト」ヲ殊更ニ其ノ儘世界ニ向ツテ發表セルモノト解シテ然ル
 ベキモノト思料スルガ如何

第三、H、Qノ象徴

第二ニ述ヘタル華府方面ノ空氣ヲ如實ニ反映シ、H、Qノ食糧輸
入問題ニ關スル象徴ハ其ノ二重の性格ヲ遺憾ナク露呈シテリ
即チ一方ニハ上述猶太人ヲ主トスル商人連ノ進出著シク具体的
ニハ或ヒハダウテイヲ中心トスル生糸輸出急キ工作、後述第四
内參照ト爲リ或ヒハ華府ヲ通シ又ハ直接朝鮮、臺灣、シヤム、
佛印等ノ現地當局トノ間ニ米ノ輸出可能性照會ノ頻繁ナル電信
折衝ヲ見ル等相當活潑ナルデスクワークノ段階ニ入りタルヲ
見受クルノミナラス又華府筋ヨリ本格的具體的了解ノ與ヘテレ
タル場合ヲ見越シ直チニ能率的活動ニ移リ得ル姿勢ヲ準備セン
カ爲來任早々例ヘハ内地津滯ノ荷役、倉庫能力ヲ調査スル等具
ノ活動振ハ稍々日サマシキモノアルヲ見ルニ至リタルモ最近ハ
人員ノミ徒ラニ殖エテ各人何レモ手持不沙汰ノ狀況ニ在レハ何

ノ故カ其ノ理由ニ付テハ上敘スル所ニ依リ凡ソ想像ニ難カラズ
ト雖モ我方トシテハ此ノ連中ノ可成「ソフト」ナル感觸竝ニ具
ノ商賣人的動キニ眩惑セラレテ事態ノ真相ヲ見誤ラサルノ要特
ニ肝要ナルヘシ（所謂貿易體ノ改組問題モ背後ニハ我國ノ貿易
産業ヲH、Qノ意ノ儘ニ動かシ從テ日本ノ産業構造ヲ合衆國ノ
意ノ儘ニ操作セントスル複雑深刻ナル意圖ヲ藏スルヤニ看取セ
ラレ餘程慎重ニ之ヲ處理スルノ要アルコト勿論ナルモ衣面的ニ
ハ此ノH、Qノ商人的面ニマツチスルモノトシテ其ノ方向ヲ考
慮シH、Qノ姿勢ト調子ヲ合ハスノ著意ハ必要ナルヘキカ）
又他方之ニ對シH、Q内ニ於テ謂ハハ華府方面ノ純政治的意向
ヲ反映スル者ハ神重人ヲ主トシ上述輸出入係ノ商人連ヲ除イテ
ハ殆ド皆然リト云フヲ得ヘク其ノ思想ノ最も典型的ナル表現ハ
昨年十二月二十二日附華僑紙所載H、Q學生部長「サムス」
大佐ノ次ノ聲明ニ之ヲ窺フコトヲ得ヘシ

所謂「線」沿フモノト認フヘク要スルニ我國當面ノ食糧問題ニ關スル此種GHQノ主流的見解ヲ分析スレバ凡ソ次々如キモカ

(四) 日本人ノ由來油斷ノ出來又惡習キ者ナレハ迂濶ニ欺サルヘカ

(四) 日本側ハ一九四五年產米收穫ヲ故意ニ過少計算シ從テ熱量計

算過少ニ算出シ居ル

(四) 日本ニ對スル食糧供給基礎トシテノ熱量ハ獨逸ニ對スル場

合算ハ五五〇「カロリー」以下ヲ以テ足ル

(四) 日本ニ對スル食糧輸入ノ開始時期ハ早クトモ四、五月ニテ可

ナリ

(四) 其ノ以前ニ於ケル日本ノ食糧不足現象ハ日本政府乃至日本國

民ノ責任ノ範圍ナリテ國內現存食糧ヲ集荷、配給上ノ技術

的拙劣乃至ハ努力不ニシテ食糧輸入問題ニ轉嫁セントスル日本

「註」第一ニ述ベタルGHQニ對シ我方ヨリ正式ニ提出セ

一九四六食糧年度食糧計畫ハ所謂舌足シテ感深ク一九四

年產米ノ政府買入力來ルキ三月頃迄ハ完遂セザルルコト

即提キ食糧輸入ヲ見込マサル場合概ネ來ル五月ヨリ赤字

ハ二ヶ月程以前ニ輸入ノ開始ヲ見込テ操作可能ナルハシキ

的算術的説明ヲ加タル事從テ之ヲ今日ノ事態ニ睨ミ

不安ニ戰テ供出農民、一般消費者ノ双方ニ先ツ安堵感ヲ

亞イテ其ノ安定感ノ上ニ始メテ政府食糧需給ノ時間的、

的操作運營ヲ圓滑ナルヲ期シ得キモノナル點ニ付テノ

的算術的説明ノ足ラサリシヲ痛感セザル

而「此」如キ硬軟兩個ノ建前ヲ包攝スルGHQノ公式的立場ハ昨年一月二四日ノ食糧、棉花、石油、鹽ノ輸入許可ニ關スル原則的、抽象的發表ノ微妙ナル心理的動機ニ之ヲ見出スコトヲ得ヘクGHQ當局係官モ口ヲ開ケハ必ス日本人ヲ餓死セシムルカ如キコトハ斷シテ爲サスト言ヒ又食糧ヲ以テ日本ニ對スル報復ノ具ニ供スルカ如キ意圖ナシト言ヒ尙又食糧問題ニ關スル限り日本政府當局トGHQ當局トハ「セームポイント」ニ在リト言フ何時ノ日カ上述戰敗國トシテノ最後尾順位ヲ熱量計算ト世界ノ本年度食糧需給事情トノ二制約下所謂「ハイドピイス」ノ時ヲ超エサルヲ限度トシ少クトモGHQカ適當量ノ食糧輸入ヲ開始スルノ善意ヲ藏スルコトハ敢テ邪推ノ餘地ナキモノト思料スル次第ナレトモ（本月二一日附星條旗紙所載UP華府電報ハ「マンカーサー」ノ「フアンタステイターマウント」ノ對日食糧輸入要請ハ全部的ニ之ヲ受入

得ルヘキモ其ノ若干ハ實現セザルヘシト述ヘ居レリ）前記南半球ノ食糧供給力ニ關スルモノト後述東洋各國ノ食糧供給力ニ關スルモノト合衆國側ニ於ケル二重ノ「ミスジャンチ」ヲ日本國民ニ對スル「ジエスチユア」上上述セル日本側ノ國內食糧ノ集荷、配給上ノ責任ノ問題ノミニ轉嫁シ去シントスル傾向ニ陥ルナキヲ保シ難ク此ノ點ハ我方ノ嚴ニ監視ヲ要スル處ナリ
尙蘇聯ニ對スル緩衝地帯トシテノ我國ノ地位及我國民感情ニ對スル考慮從テ又共產黨政勢ニ對シテ内心快シトセサル「アメリカ」的本能モアリ又殊ニ天皇制ヲ樞軸トスル現日本政府機構カ食糧問題ノ爲崩壞シ去ルカ如キコトアシンカ殷鑑遠カラス朝鮮ニ在リ日本ハ渾沌タル状態ニ陥リ相手トスル中心政府機構ヲ見失フニ至ルト共ニ占領軍自體ノ日本進駐ノ使命ハ少クトモ差營リ達成不能ニ陥リ從テ「マツカトサー」ノ致命的黒星ト爲ルノ虞レアリル見シハ常識的ニ明瞭ナルヲ以テ

彼等トシテモ天皇制ヲ中心トスル日本政府機體カ食糧問題ノ
爲崩壊セントスルノ危機ニ際シテハ少クモ彌縫的ニテモ之
ヲ救援スルコトヲ以テ最後ノ一線ト爲シ居ルコトハ推察ニ難
カラサル處上進昨年十一月二四日臨時議會開會ノ前日GHQ
カ唐突食糧輸入ノ原則的許可ノ聲明ヲ發表セルカ如キモ此
線ニ沿フモノト判斷シテ誤リナカルヘキト共ニ上述日本側ノ
責任ナリトセラルル本年四月、五月迄ノ期間ニ付テモ此ノ趣旨
ニ於テ少クモ彌縫的挺入レノ必要アルヲ認メ既ニ相當ノ具
體的考慮ヲ拂ヒツアアルモノト判斷シ得ル徵候アルヲ認ムル
次第ナリ(後述第四(六)参照)

第四 各期待國別ノ情況

(一) 朝鮮(米八〇〇千屯期待)
前記我方提出食糧計畫ニ於テハ三〇〇千屯ノ食糧輸入全期待量中
八〇〇千屯ヲ朝鮮米ニ期待セル計畫ノ可否ハ全體トシテ未ダ華府
當局ニ溫メラレアリテSOAPヨリハ勿論未ダ現地進駐軍當局ニ其
ノ旨轉令セラレアラズ朝鮮ニ於テハ我が八〇〇千屯輸入期待ハ未ダ
全ク日程ニ上リ居ラザル段階ニ在リ從テ第一(八)ノ(イ)ニ掲ゲタル石炭
生産確保並ニ終戦後ノ石炭ノ朝鮮輸出強行ニ關連シテ別途我方ヨリ
提出セル一〇千屯乃至一〇〇千石ノ朝鮮米緊急輸入許可申請ヲGHQ
ガ採リ上ゲ之ヲ現地進駐軍宛ニ強硬ニ移轉セル電報ニ對スル回答
ヲ見テ然ルベキモノナランモ昨年一月中旬朝鮮軍政當局ヨリGHQ
宛再展ニ巨リ「ソノサーブラス」ノ回答アリタリ而シテ之ヲ一ノ
ノ説明ニ據ルトキハ現在朝鮮ニ於テハ小黨分立、民心ノ歸趨ヲ知ラ
ズ正ニ「ケトオス」ノ状態ニ在リ而モ鮮人ノ信託統治案ニ對スル對



米皮感ハ相^四ニ強ク從テ一、四、五年産米ガ皮肉ニモ朝鮮ニ於テ近年
稀ニ見ル豐況ヲ呈セルハ事實トハ云ヘ曾テノ日本統治時代ノ如ク米
軍政當局ノ權力ヲ以テ米ヲ例外ニ追出ス方如キ工作ハ全然不可能若
シ米軍ノ權力ヲ以テセントスル場合ハ鮮人自ラ米ヲ「テイヌ」ヨ
ルニ至ルベキ懸念スラアリ朝鮮生活必需品會社ハ朝鮮食糧總局ノ
後身、米軍政當局ニ依リ監視セラレ(1)過剩米對策ヲ前提トスル最低
價格制ニ依ル稷ノ無制限買入レ向米ノ一手輸出(2)生必物資ノ一手輸
入ヲ新ニ使命ツケラルルノ米集荷、實績全ク擡ラズ現ニ京城ニ於テ
ハ何日分ノ釜山ニ於テモ何日分ト云フノ食糧「ストツク」ヲ擡ス
ルニ過ギザル趣ニシテ要スルニ「ノトサー」ブラストハ此ノ事態ヲ
指シタルモノソ如シ即チ日本ニ對スル場合ト全ク趣ヲ異ニシ朝鮮ニ
對スル米進駐軍ハ其ノ國際環境、國際モ類ル「ソフト」ナル態度ヲ以
テ臨ムゴトヲ統治ノ建前ト爲セルモノノ如ク要スルニ其ノ限界内ニ
於テハ「ノトサー」ブラスト云フ謂ナリ而シテ食糧豐富ヲ前提トシ

0379

朝鮮經濟ハ全ク自由經濟ノ段階ニ移行シツツアルヲ以テ適當ナル必
需見返リ物資ヲ以テ米ヲ農家ヨリ吊出スノ外ナカルベキ旨ヲ(4)日
當局モ漸ク自認スルニ至リ昨年一二月二六日輸出入係ノ「ピツケル」
少佐自ラ其ノ對日輸出餘力ノ判定、米ノ集荷ヨリ輸出ニ繋ガル機構
ノ確立等ヲ主タル使命トシ我方ヨリ提出セル「一三月見返リ物資輸
出計畫表」ヲ携ヘ渡鮮本月五日歸來セル處其ノS.O.A.Pニ對スル復命
ハ更ニ一層「ベシミス」テイクニシテ進駐軍自ラ朝鮮生活必需品會
社ヲ驅使シ日本ニ於ケルヨリ以上積極的ニ軍「トラツク」ヲ動員ス
ル等米多集荷ニ努力シ尙見返リ物資ニ付テモ朝鮮ニ於ケル終戦時ノ
交易警固手持品乃至ハ日本陸、海軍集積物資等ヲ押収放出シ居ルモ
依然トシテ殆ド集荷ノ實態ヲズ其ノ原因ハ主トシテ滿洲雜穀輸入ノ
見込立タザルヲ前提トシ米ノ糧食ニ依ル糧費ト政治上、經濟上ノ先
行不安ヲ相伴ヒ日本ヨリ米ノ密輸出ト「バーター」的ニ密輸入セラ
レ居ルモノト稱セラルル密柑ガ「備五、六圓」ニモ取引セラルル底ノ

0380

RE'-0041

0269

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

「インフレ」經濟ヲ反映シ農家ガ米ヲ貨物シテ手放サザルコトニ在
リテ今ノ農集荷ノ見透シ皆目立タズ恰モ必需品會社米軍監理官ノ交
代ニ際望シ新監理官モ遂ニ腹ヲ決メ本月一五日ヨリ石七・八〇〇圓
見當ヲ以テ各農家收穫高ノ一ノ三ヲ目安トシ強制收購ヲ開始シ國內
米價ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ可及的輸出力ノ造成ニモ力ムル手筈
ト爲リタルヲ以テ二月末トモ爲ラバ日本ニ對スル輸出可能量ノ目安
モ判明スルミ至ルベシ但シ米ノ偏在ハ甚ダシク農村方面ニ或ル程度
米ノダブツキ居ルハ事實ナルモ都市ノ窮迫ハ甚ダシキヲ以テ或ヒハ
一時的ニ食糧輸入ノ不得已救済方途スラ考慮セザルヲ得ザル底ハ情
勢ナリニ加ヘ愈々近ク三八度線ノ撤廢ト共ニ北鮮ノ鐵、石炭ト南鮮
ノ米トノ「パートナー」協定締結ノ機運スラアリヘ一月一四日附華府
電報ハ之ガ爲南鮮ヨリ四・五、〇〇〇千「ブシセル」ノ米ヲ北鮮ニ
廻ス線定ナリト傳ヘ夢ニ京城ニ於ケル米藏進駐軍會議ハ一月一六日
ヨリ開始セラレタリ日本ニ對スル米ノ輸出ノ實現ハ殆ド之ヲ期待

シ難シト謂フニ在リ之ヲ「スイメルマン」ノ表現ニ從フトキハ正ニ
之「オールモストホープレス」ノ事態之ヲ承ケテ「マルカット」
「ライダー」、「ノイ」等MSSノ幹部諸公モ朝鮮米ニ關スル限リ
全ク匙ヲ投ゲタル態トモ見ユ尤モ他方MRS農業者部長「レナード」
ハ州途朝鮮米輸入ノ必ズシモ絶望的ナラザルヲ述ベ從テ之ガ見返リ
物資輸出ノ準備ニ付テハ然ルヘク取進メ價クヘシト勸奨シ居リ其
間稍々情勢判斷ニ苦シム點ナキニ非ザレドモ何レニシテモハ〇〇千
屯ト云フガ如キ大量ノ朝鮮米期待ノ不可能ナルハ今ヤ全ク疑問ノ餘
地ナキ處ト云フヘク其ノ輸入ヲ見ルトスルモ極メテ少量ニ止マルハ
キハ必至ノ情勢ナリ(最近歸還セル朝鮮總督府ノ專門家渡邊技師
報告ニ據ルトキハ朝鮮ニ於ケル米ノ實收高自體モ肥料不足ト際
入不十分ニ伴ヒ輸入不足甚ダシク全鮮ヲ通ジテ二・五〇〇千石程
ノ收穫ト見ルヲ至當トスベク從テ南鮮ニ於テ二〇〇程既ノ雜穀
ノ收穫ト見ルヲ至當トスベク從テ南鮮ニ於テ二〇〇程既ノ雜穀



荷スルニ過ギザルベシトノ想定ニテ而モ此ノ想定ハ米進駐軍當局ニ
モ其ノ儘傳達セラレアルル事ナリ

0383

口 壹 萬一 米ニ〇〇千屯(初待)

一九四五年二期作米不振ノ報ヲ入レ扱方ニ於テモ目下ノ處ハ手ヲ
打ツ餘地ナカルベシト思料シ特ニGHQニ對シ積極的工作ヲ試ミ
ボラスGHQニ於テモ約三月程以前現地ヨリ「ノイサーブラス」
電信ヲ入レテ放任ノ態ナリシガ最近我方ノ復員船渡入港開始セ
ラルルニ當リ若干ニテモ之ヲ引出スノ餘地ナキヤト先般西山次長
ヨリ「メイ」ニ對シニ〇〇千屯ノ輸入申請ヲ重テ申入レタル處
之ヲ承ケテGHQヨリ本月五日頃現地ニ電信ヲ發シ居リ之ニ對シ
現地ヨリハ未ダ其ノ應答ナキ程度ノ段階ナリ

0384

RE'-0041

0271

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

(三) 印一米ニ五〇千屯期待
終戦ニ際シ三井物産カ西貢ニ手持セル一〇〇千屯ノ米引取要請ハ
G.H.Q.ノ採擇スル處ト爲ラズ而シテ現地ノ混亂状況ノ爲G.H.Q.自
體輸入交渉ノ相手方トスル現地責任當局者ノ判定ニ苦シミ居ル感
ニテ泰ニ宛ニ角一應英軍司令部ヲ通ジ米ノ輸出可能性ニ付照會ヲ
發シタルモ之ニ對シ何等應答ナキヲ以テ更ニ昨年十二月十九日附
再照會ヲ發シタル程度ノ心細キ段階ニ在リ

0385

(四) シヤム一米一〇〇千屯期待
既ニ夙クG.H.Q.ニハ華府ヲ廻リ英軍司令部ヨリ「ノーサトブ
ス」ノ同電到著シ居リタルモノノ如ク華府ニ於テモ之ヲ問題視シ
華府ヨリ直接然ルベキ「エイジエンシイ」ヲ現地派遣ノ計畫中ナ
リシ處其ノ後本年早々英暹和平條約ノ締結アリ同協定ニ依レバ「
シヤム」ハ今後二〇ヶ月間ニ一五〇〇千屯ノ餘剩米ヲ造出シ之ヲ
英側ノ指定スル國際機關ニ引渡スコトセラレアリ仍テ米側モ此
ノ國際機關ニ參加シ之ヲ英側勢力圏ニシテ壟斷セシメズ米側勢力
圏ニモ適宜領ヶ前ヲ受クル折衝ヲ爲スコトシ既ニU.S.O.ノ社
員カ現地ニ到著シタル趣ナリ而シテ「ズイメルマン」ノ説明ニ據
ルトキハ米側勢力圏ニ付獲タル領ヶ前ハ比日等圈内需要各割ニ對
シ「イクホル」ヲ「テイシグ」ニUSO扱ヒニ依リ振り別ケ輸出
スル建前ノ如クニシテ彼ハ華府情報ニ據ルトキハ「シヤム」米ノ
餘剩ハニ〇〇〇千屯ニモ達スルモノト推定セラレ東洋各期待中

0386

RE'-0041

0272

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

今ノ處「シヤム」米ノ日本輸入實現ガ最モ好望ナリト稱シ居レリ
其ノ後現地ヨリ「G M Q」宛入電ハ「ウエイ」ワリ「グライ」一本月
二一日附星條旗紙所載「P」華府電報ハ「シヤム」ガ富面唯一ノ米
ノ餘剩ヲ有スル處ナル旨及其ノ輸出可能數字ニ付英、合衆、間
ノ意見未ダ一致セザル旨ヲ報シ居レリ

0387

(五) 滿洲

G M Q 自證現地當局トノ間ニ何等ノ連絡手續リヲモ著ケ得ザル底
ノ段階ニ在ルノミナラス「メイ」ノ如キハ蘇聯ヲ相手方トシテ交
渉スルモ抑々何ノ得ル處アルベキヤト云フ口吻ニテ今ノ處全ク
入ノ見込樹タズ

0388

(内) 合衆國其ノ他(小麦一五〇千屯期待)
 通例ナラバ小麦供給國トシテ期待シ得ル濠洲、亞爾然丁ハ既述ノ如ク期待國外ニ陷テ去リタルモノノ如ク結局合衆國或ハ加奈花ニ之ヲ期待スルノ外ナキモ合衆國ノ一九四五年年度農作物ノ大豐作ハ昨十一月末農務省ヨリ發表セル次ノ收穫確想數字ニ依リ極メテ明瞭ナル處即チ戰前ノ平均收穫高ノ三分ノ一程度高ヲ示ス驚威的豐作ニシテ小麦ノミニ付テ之ヲ觀ルモ概ネ一〇〇〇〇千屯程度ノ輸出餘刀ツ藏スルモノト認メラル尙加奈花ニ付テハ情況詳カナラズ(本月二一日附日本「タイムズ」所載合衆國農務省報告ハ本年七月十二月合衆國小麦輸出ハ約五〇〇〇千屯ニ達スベキ旨及若シ運輸事情等ニシテ許スナラバ之ヲ他ニ約六七〇〇千屯程度増加シ得ベシト報シ居レリ)

| | | | |
|----|---------|-----|--------|
| 小麦 | 三〇七四四千屯 | 玉蜀黍 | 七八八一千屯 |
| 大豆 | 二一〇三〇 | | 四八〇四〇 |

而シテ合衆國ニ對シテハ「タウテイ」、「マフソク」等生糸專門家ノ急遽來朝ニ伴ヒ急々近々生糸ノ輸出再購セラルル段取進行中ナル處「メイ」ハ生糸ノ輸出代金ハ必ズ之ヲ以テ小麦其ノ他ノ食糧ヲ輸入シ日本ニ輸出スルコトニ取進ムベキヲ以テ生糸輸出實現ノ際其ノ促進コソ食糧輸入ノ最モ確實ナル捷徑ナルベキ旨大イニ國內宣傳ヲ爲シ勞々國內「インフレ」防止ニ資スルコト然ルベシト示唆シテリ從テ今小麦ノミニ依ル期待益量ノ輸入ヲ合衆國ノミニ期待スルハ或ヒハ恐ラク不可能ナランモ上述ノ東洋各期待國ノ場合ト異リ其ノ小麦輸入ニ繋ガル具體的筋道構構ノ確立セル合衆國方面ヨリノ小麥が生糸等見返リ物資ノ輸出弗化ト併行シ最先ニ輸入セラルル公認最モ大ナルモノト謂フベク又既述ノ如ク最近日米當局ハ合衆國ニ對シ大豆、米ニ付テモ期待要請ヲ發シアルガ如キヲ以テ(既ニ朝鮮ノ項ニ於テ述ベタルガ如ク又事感ハ略々之ト同様ナルコト上述東洋各期待國ニ付述ベタル處ニ依リ看取シ得ルガ如クナルヲ以テ日米當局モ遂ニ匙ヲ投ゲ東洋各國ニ對スル食糧供給期待ノ殆ト不可能ニ庶



幾キヲ感得其ノ期待一部
 附星條旗紙所載丁ニ府電報ニ所謂「アンタステイクアマウント」
 ノ對日食糧輸入ヲ要請シタルモノノ如シ。尙此ノコトハ最近「ライ
 ター」「メイ」方異口同音ニ四山次長ニ對シ東洋各國ハ期待薄ナレ
 ドモ之ニ奮ヘテ華府ニ對シ「ドラスタイク」ナル手ヲ打チツツアル
 ヲ以テ安心ヲ乞フ旨言明シタル事實ニ依リ裏書セラルル處ナリ。
 之ガ實現シ得ルニ於テ我々方ヨリ主として輸入ヲモ救テ要請其ノ實現ニ努
 カネル務合ハ合衆國ヨリ輸入總量ニ於テハ或ヒハ一五〇千屯程
 度ノモノ以上ヲ得ルコト必スシモ不可能ニ非ザルベシ而シテ本月十
 五日「メイ」。「マイメルマン」ノ非公式ニ明カニセル處ニ依レバ
 取不救現下日本ノ社會不安救済ノ應為手段トシテ三月中旬迄ニ二五
 千屯ノ合衆國小麥ノ輸入實現許可ヲ華府ヨリ日Qニ指令アリタル
 事ニ如クハ尙此ノ外現ニ芝浦ニ到着タル「マニテ」同航軍需餘剩小
 麥一千屯ニ近ク日本側ニ引渡スベシ旨其公式ニ指示シ之ハ六ヶ月期間

0391

計畫ノ第一着手ナリト謂ヒ又其ノ日本國內ニ於ケル反響ニ應ジ申ニ
 二〇〇千屯ノ合衆國小麥輸入實現ヲ用意中ナリト謂ヒ而モ其ノ決済
 代金ニ付テハ差當リ問題ト爲シ居ラザルコト日所望船腹ハ問題ナク
 合衆國船腹ヲ使用スル甚難ト認メラレル等將來ノ提示條件ハイザ知
 ラズ目下ノ處ハ頗ル寬大ナル條件ノ下ニ愈々近ク合衆國小麥輸入ノ
 實現好望化スルニ至レリ此ノ緊急輸入計畫ト我方ノ提出セル食糧計
 畫ニ依ル輸入計畫全體ノ實現トノ關係等ハ明確ヲ缺クモ之ヲ以テ三
 〇〇千屯ノ輸入要請全體ガ「フリーパス」ノ建前ノ下ニ愈々本
 格的實現ノ入ノ開始セラルル段階ニ入りタルモノト雖ルハ勿論早計
 ニ先スバク寧ろ口既ニ述ベタルガ如ク之ヲ「ジャーナリストイク」ニ
 關ルトキハ思想ノ混亂ト食糧不安トガ形影相伴ヒ今ヤ天皇陛下御心
 トスル日本政府後援崩壞ノ危機ニ曝サレ居ルヤノ謂ハバ目ヲ遠クシ
 ル幻影ニオビエ取不救之ヲ救済スルコトガ占領軍從テ合衆

0392

RE'-0041

0275

嘲自識ノ利害ニモ一致スルコトヲ認ムルト共ニ上述ノ如ク東洋各邦
待助ニ對スルG B 側ノ情勢判斷ノ誤謬ニ對スル責任モ應得シ多
慌テ氣味ニ立通りタル結果ヲ動機トスルヤノ點モ看取セラレ勞々此
ノ邊ニテ日本嘲民ニ對スル「ヂエスチエア」トシテ取不敵ノ誕入レ
手段ヲ講シタルモノト解シテ然ルベシト思料スルカ如何從テ目先樂
觀ハ大禁物ナルト共ニ此ノ契機ヲ最モ有效ニ嘲内稟荷ノ向上ニ資シ
得ル如ク活用シ勞々以テ「インフレ」防止ト共ニ嘲内態勢強化ヲ圖
ルン安符ニ切實ナルモノアルヲ信ズル次第ナリ
尙合衆嘲小麥ノ「ガヴァアーンメント」ブラス「ター」フシエル「ニ弗
ニテ計算セバ」一五〇千屯ノ小麥輸入ニハ「O B」價格ニテセセ〇〇
〇千弗程度ノ弗ヲ費シ若シ借越ノ認メラレザルニ於テハ資金ノ點ニ
於テ直チニ行詰リヲ來ス懸念アルモ別途、桑港ニ送付凍結セラルベキ
我嘲ノ金銀ハ嘲合嘲側ノ承認ヲ前提トシ少クトモ一億弗程度ハ必需
品輸入資金ニ充當シ得ベキ見込アルヲ以テ合衆嘲小麥ノ「一五

〇屯ノ輸入モ資金的ニハ必スシモ可能ニナキニ非ス

又生糸輸出ハ食糧輸入目的ノ爲ノ手段ニ外ナラザルヲ以テ特ニ輸出係一俵ニ對シ小麥ナラバニ五〇「ブシエル」一五〇石一程度米ナラバ三七石程度ノ「バーター」的輸入ヲ配慮セラレタキ旨及既ニ夙ク合衆國ヨリノ大豆輸入ニ付テモ配慮セラレタキ旨我方ヨリG.M.Q.當局ニ對シ非公式ニ申入レアリ
向又合衆國ヨリノ輸入船腹ニ付テハ前述ニ五千屯ノ小麥緊急輸入ノ船腹ニ歸シ何等問題ト爲シ居ラザル點及幾ニ我方ヨリ有馬山丸水川丸ノ生糸輸出、小麥輸入用船腹トシテノ使用方G.M.Q.當局ニ非公式提議シタルニ對シ合衆國內輿論上寧ロ採ラザル旨當該係官ヨリ意思表示セラレタルニモ被シ幾ニ「クレマー」カ説明セル當時トハ歐洲復員配船狀況等ニ異變ヲ生ジ殆ト全部的ニ合衆國船腹ヲ使用シ得ルモノト見テ支障ナキモノノ如シ

0395

第 二 概 括 的 結 論 及 見 透 シ

要之「ボツタム」宣言ニ基ク「ハイドピースボリシイ」ノ線ニ沿ツテ進止スヘキコトヲ宿命ツケテラレタル敗戰國トシテノ我國當面ノ食糧輸入問題ハ此ノ冷嚴ナル制約ニ加フルニ聯合國側ニ於ケル次ノ三點ノ大イナル「ミスジヤンデー」ヲ附加セラレアリ其ノ進展ノ見透シニ付重大ナル暗影ヲ投シ居ルモノト謂フヘキナリ

(イ) 南半球ニ於ケル一九四五年農作物ノ早魃ニ因ル大不況
(ロ) 東洋各輸入期待國ニ於ケル終戰ヲ契機トセル事情ノ急激ナル變更
(ハ) 右事情ノ變更ヲ背景トシ聯合國側ノ之等ノ各國ニ於ケル「ソフトボリシイ」、「ミリタリサイヴイス」、無經驗等ニ基ク統治方式ニ因ル食糧輸出促進工作ノ不手際乃至不成功
而シテ我方ニ於テモ第二點及第三點ニ付同様ナル「ミス

0396

RE'-0041

0277

ヤツテ一ヲ冒シ居リタルモノト云フヘク現在ノ事態ヨリ之ヲ觀
 ルトキハ漫然ト從來ノ統計數字ニ頼リ之等ノ東洋各期待國ニ於
 ケル既往ノ「ハンガイエキスポート」ノ實態ヲ無視シ事情ノ變
 更ト政策ノ更改トニ伴ヒ之等ノ各國ノ食糧輸出事情カ全ク相
 ヲ一變スルニ至ルヘキコトヲ見越シ得サリシ點アルハ否ムヘカ
 ラサルモノアリ而モ此ノ如キ政治上、經濟上ノ深キ緣由ニ基ク
 深刻ナル事態カ一朝一夕ニシテ好轉スルカ如キコトヲ期待シ得
 サルハ言フ俟タサル處

是ヲ以テ上述GHQ當局モ既ニ自認シ居ルガ如ク大觀的ニハ東
 洋各期待國ニ付テハ殆ト其ノ見込ナキモノトシテ食糧輸入見込
 數字推算ノ基礎ト爲スコト最モ安全妥當ナルヘシ唯我國ノ食糧
 需給操作上緊急避難的措置ノ手懸ハ之ヲ何トシテモ時間的、場
 所的ニ之等ノ各國ニ索ムルコトトセサルヲ得サルヲ以テ後述ノ
 如ク各種懸命ノ引出工作ハ敢テ之ヲ試ミサルヘカラサルモノト

思料スルモ其ノ成功ノ公算ハ極メテ少ク而モ其ノ成功スル場
 合ニ於テモ多クノ期待ハ勿論全ク不可能ニ屬シ東洋全地域ヲ合
 シテ多クトモ 屯糧度ノモノニ過ギスト判斷シテ誤リ
 ナカルベキカ

其ノ反面合衆國ニ對スル食糧期待ハ其ノ一、九四五年農作物ノ
 豐況ト相俟テ合衆國自体ノ日本占領責任當事國トシテノ複雑ナ
 ル國際的利害關係ヲ反映スルト共ニ既述ノ如ク合衆國ガ獨占ス
 ル對日食糧供給事業ト之ニ伴フ見返リ物資輸出事業ノ採算的動
 機ニ刺戟セラレ相當好望ナルモノト判斷シテ支障ナカルベシ此
 ノ意味ニ於テハ舊秩序ヲ喪失セル東洋各國ニ於テニ非ズシテ合
 衆國自体ニ於テ一、九四五年農作物ノ豐況ヲ呈セルハ敗戰國日
 本ニトリ洵ニ不幸中ノ幸ト謂フベキカ即チ合衆國方面ニ對シ小
 麥ヲ中心トシ大豆、米、粟、麥、蜀黍ヲモ敢テ之ヲ厭ハザル
 コトトシ之等ノ食糧物ヲ輸入工作ヲ強力執拗ニ追進スルニ於

RE'-0041

0278

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
 国立公文書館 アジア歴史資料センター
 Japan Center for Asian Historical Records
 National Archives of Japan

カ政府公式數字以外ノモノトシテ銷流シツツアリト思料スル旨
申述ベタリ以テ對日供給食糧ノ梓査定ノ一材料トシテ考慮セル
點ヲ示唆セルモノト解シ得ルニ非ザルカ

テハ略々期行量一、一五〇千屯程度ノ食糧輸入ヲ達成シ得ル公
算極メテ大ナリト思料スルカ如何(前述ノ如ク本月二十一日附
日本「タイムス」所載合衆國農務省發表ハ合衆國小麥輸出可能
量ハ五、〇〇〇千屯乃至一二、〇〇〇千屯程度ニ達スベキ旨ヲ
述ベ尙同日附星條旗紙所載UP華府電報ハ本年度合衆國小麥
ノ極東向輸出ハ八〇〇千屯程度ニ達スベキ旨茲ニ支那ハ國內交
通機關ノ破壊ニ伴ヒ小麥輸入ヲ受入ルル可能性ニ乏シキ旨ヲ述
ベ居レリ)

結局目下ノ兩地域ノ綜合的結論トシテハ一、九四六食糧年度ニ
於テ多クシテ 屯少キ場合ハ 屯程度ノ食糧
輸入ヲ見得ルニ過キザルモノト想定シ今ヨリシテ此ノ冷感ナル
想定數字ヲ基礎トシ内外諸般ノ食糧對策ニ最善ノ手ヲ盡シ萬違
漏ナキヲ期スベキ段階ニ在ルヲ信スルモノナリ(「マルカット」
ハ最近西山次長ニ對シロハニ於テハ約一、〇〇〇千石程度ノ米

(一) 總論

一九二六年食糧年度ノ我國食糧需給ハ既ニ第一四ニモ述ヘタルガ如ク三〇〇千屯ノ食糧輸入ヲ前提トシテモ一九二五年產米ノ政府買入ガ概ネ來ルベキ三月頃迄ニ計劃通り完遂ヒラルルコトヲ操作上ノ絕對條件トシ現一般市民一人一日配給量ノ二五〇瓦(約三合)ノ基準ヲ辛ウシテ維持シ得ルニ過ギリルモノナリ然ルニ今輸入量ハ後述種々ノ正道、糧道的工作ヲ敢テ試ミルコトヲ前提トシタカダガ

屯程度ヲ見込ミ得ルニ過ギサルノ冷蔵ナル想定ヲ與ヘラる自ラ之ニ對スル對策トシテハ其ノ第一ハ叶ハヌ迄モ國內食糧源々最モ效率的ニ活用スルコトニ付更ニ一層ノ努力ヲ傾注スルノ外ナク(前記ノ如クGHQ當局ハ假令外交辭令トシテ云ヘ食糧輸入問題ニ對シテ限リ日本政府ト「ヒームポート」

ニ在リト稱シツツ相當ノ好意ヲ以テ輸入ノ實現ニ努力シツツアルハ事實ナリ而シテ其ノ華府ニ對スル前掲的説明トシテ日本政府ガ國內對策ニ付最善ノ方策ヲ以テシツツアルコトヲ釋明スルヲ要スルハ當然ノコトト云フベシ。即チ此ノ意味ニ於テ國內對策ニ全力ヲ竭スコツ亦輸入確保ノ爲ノ必然條件タルコトヲ銘記スベキナリ。尙輸入ノ促進ニ付テモ我國ノ凡有GHQ觸手ヲ總動員シ統一セル意識ノ下ニ更ニ一層強力執拗ニGHQ工作ヲ敢テスルヲ要スルコト勿論ナリ

尙GHQハ既述ノ如ク一應必事物資ノ輸入ハ之ヲ認ムルモノクレヂット」ハ之ヲ認メラ建前ヲ堅持シ居リ從テ愈々食糧輸入ノ本格的開始ノ見込漸クバGHQノ輸出急ギ指令ハ恐ラク應接ニ暇ナキニ至ルベキヲ豫想ヒラルル處ニ提出セル一九二六年輸出品表ノ實現ハ材料入手、價格、輸送、包裝、貯備等ノ諸點ニ付相當以上ノ難關ヲ豫想ヒラレ愈々ノ懸念ニ於

テ此ノ點ニ行キ詰リテ來スナキヲ保セス今ヨリシテ輸出見込
品ハ少クトモ其ノ所在ヲ突止メ之カ脱漏ヲ防ギ要スレバ之ヲ
貿易廳特別會計等ニ於テ買上ケ豫メ各港倉庫ニ貯備シ置クト
共ニ活潑ナル輸出品ノ仕掛リヲ物動的國家計劃ニ乘ヒシメテ
爲ス等ノ施策ヲ急速實現ノ要アルベキヲ信スルモノナリ(尙
財閥解体等ノ必然的貧富平均化情勢ニ應ジ急速ニ貧窮化スル
虞レアル貴族、富豪等ノ所藏美術品等ヲ國家機關ニ依リ買上
ゲ貯備シ之ヲ以テ見返リ輸出品ニ充當スルコトト爲スノ施策
ニ付テモ急速實施ノ要アルベキカ)

(二) 國內食糧資源ノ效率的活用

(1) 食糧供出制度ノ抜本的強化

好ムト否トニ拘ラズ差當リ此ノ方向カ國民ノ大量餓死ヲ免
ルル唯一最大ノ方途ナルコト云フ迄モナシ此ノ際漫然ト從
テ食糧供出方法ヲ踏襲強化スルニ止マラズ膨脹タル民主

的氣勢ニ即應シ基礎ヲ換ヘタル抜本的供出強化方策ヲ緊急ニ
立案實施スルノ要アルベキヲ信ス而モ終戰後ノ思想的、社會
的、經濟的混亂ト差當リGHQ自體寧ロ方便トシテ此ノ混亂
ヲ助長スルガ如キ日本政府ノ批評的立場ヲ執リ從テ中央政府
ノ政治力ハ著シク減殺セラレ居リ急速ニ之ヲ回復スル見込ナ
キ現状ニ鑑ミ此ノ場合中央ヨリノ號令ニ基ク強化施策ノ實現
ト其ノ成功ハ到底之ヲ所期シ得サルモノト謂フベク寧ロ各農
村ノ末端機構ヨリ村堅メ的ニ強化ヲ行クニ如カサルヲ痛感スル
モノナリ

(2) 一九四六年產麥肥培管進ノ強化

之ガ爲先ソ概ネ來ル二月末頃迄ニ可及的多量ノ燐鑛石輸入ノ
實現ヲ期セリルヘカラリルハ勿論ナレドモ之ヲ民主的ニ自與
組織化ヒシメタハ農村精農化運動ノ活潑ナル展開ニ期待シ得
ルヤ如何

(5) 甘藷ノ大增産計畫ノ立案實施ト之カ大量早掘ノ實現
 (4) 南瓜ノ大增産計畫ノ立案實施
 (5) 水産物ノ増産計畫ノ急速立案實施
 漁船ノ急速建造ニ付強力ナル施策ヲ講スルト共ニ之ニ即應シテ
 H.Q.ニ對シテ藍油輸入量ノ増大ヲ要請實現セシメヨリ合運化シタ
 ヲ重油ノ配給方策ヲ手懸リトシ更ニ一層強力ニ國家ノ計画的配
 給「ルート」ニ乗ルベキ漁獲物ヲ大量獲得スルノ方途アルベシ
 ト恩料スルモ如何
 (6) 主食配給制度ノ徹底の合運化
 所謂「働カレル者ハ食フベカラズ」ノ線ニ沿ヒタル主食配給制
 度ノ合運化ノ實現ハ是非共必要ナルベシ而シテ夏場ニ向ツテハ
 一定期間一般基準配給量ヲ若干壓縮スルコトトスルノ不得已
 仕儀ニ付テハ今ヨリシテ「備工」ノ要アルベシ
 (7) 郷土食ノ徹底的發明ヨリト其ノ主食配給秩序ヘノ計画的組入

(8) 未利用食糧資源ノ徹底的活用
 徒ラニ懸ケ聲ノミニ止マルコトナク少量ニテモ直チニ實施可
 能ナル方策ヲ擧口拙速的ニ實施ニ移スノ要アルベシ
 (9) 蔬菜身邊目耕ノ汎行
 土地、種子、農具ニ付テ夫々相當ノ隘路アルベキモ先ソ戰災
 跡地ノ利用等ニ依リ可能ナル地域ヨリ之ヲ始ムルコトトシ可
 及的急速ニ各都市ニ之ヲ汎行セシムルニ容易ナル如キ國家的
 措置ヲ講シ依ツテ此ノ蔬菜自給ノ國民的姿勢ト前述「働カレ
 ル者ハ食フベカラズ」ノ主食糧ノ國家配給姿勢トヲ連結セシ
 ムル構想ハ如何尙此ノ徹底的汎行ニ伴ヒ有名無實ノ蔬菜配給
 制度ハ一切之ヲ撤廢シ本來ノ專業的農家ニハ販賣用トシテハ
 専ラ主食糧ノ栽培ヲノミ期待スルニ止メテ可ナルノ利便アル
 ニ非スヤ

(三) 食糧輸入ノ徹底的追進

(1) 合衆國對策

小麦ヲ中心トシ大豆ノ外更ニ米要スレバ玉蜀黍ニ付テモ輸入ヲ要請其ノ量及時期ニ付極力促進ヲ圖ルコトトシG.H.Q.當局ニ對スル我國關係官民ノ凡有觸手ヲ總動員シ統一セル意識ノ下ニ執拗ニ食下リ特ニB.S.B.輸出入係ノ商人連ノ味ニ合フ如ク持掛タルノ要アルト共ニ更ニ要スレバ「ジャナ」ナリズム」婦人團體等ヲ動員シ合衆國派遣「ジャナリスト」。「マツカーサー」夫人等ヲ通シ合衆國內輿論ヲ呼掛クルノ方途モ考慮ノ要アルヘシテ此ノ際之ト併シ合衆國同ケノ生糸ノ大量輸出ヲ促進スルノ要アルヘシナリ尙U.S.O.O.カ合衆國陸軍省ノ代理商社トシテ合衆國トノ間ノ貿易ニ對現物操作上ノ實態ヲ握ルコトヲ爲ルヘシヲ以テ之ト常時連絡ヲ緊密ニシ特ニ其ノ採算的立場ヲ觀察シ

(3) 朝鮮對策

側面的ニ食糧輸入ヲ促進スルノ着意ニ付テモ留意肝要ナリ
 前述セル通り終戦後ノ著シキ事情ノ變更下程度ノ差ハアレ東洋各期待國ニ對シ略々一概ニ通スル處ナルモ特ニ朝鮮ニ付米輸入ノ正式開始ヲ見ルニ付テハ少クとも次ノ二前提ノ適合的存在ガ必然的ニ望マシキモノトセラハルモハナリ其ノ一 S.O.A.P.自體ガ朝鮮ニ對シ及フ限りノ勢威ヲ以テ臨ミ餘程積極的ニ謂ハバ作戰命令的ニ日本ニ對シ然ルベキ數量ノ朝鮮米輸出ヲ指示命令スルコト但シ此ノ場合現地進駐軍當局ノ面子ヲ毀損セサルベキコト
 其ノ二 朝鮮米進駐軍當局ガ日本ニ對スル米輸出ノコトニ關スル限リ朝鮮人ニ對スル謂ハバ受身の建前ヲ一擲シ相當「ハード」ナル態度ヲ以テ臨ムコト
 之ナリ 然ルニ此ノコトタル斷シテ米軍當局ノ致テスル

ニ非ザルト共ニ朝鮮ノ位置スル微妙ナル國際的地位ニモ鑑ミ殆ソド實現不可能ト謂フベキモノ即チ茲ニ朝鮮米輸入ノ見透シニ關スル致命的難關ノ存スルヲ見ル而シテ我方トシテハ如何ニ困難ナリト雖モ何トシテモ之ヲ超克セサルベカラザルモノナル以上叶ハヌ迄モ正面ヨリ之ニ臨ムノ愚ハ之ヲ避ケ搦手ヨリシテモ朝鮮米輸入ヲ正式ニ實現セシメ得ル穿國氣ヲ米軍政當局ト朝鮮人トノ間ニ造出スル如ク工作スルノ外ナシ之カ爲ニハ

先ツ朝鮮米進駐軍自體朝鮮米ノ日本送出ガ其ノ政治的・經濟的利害ニ合致スルコトヲ感得セシムル如ク仕向クルコト若シ之カ不可能ナラバ少クトモ朝鮮米日本送出カ米進駐軍當局ノ責任ノ範圍ノ問題ニ支障ヲ及ホササルモノト爲ルカ如ク仕向クルト共ニ

之ヲ試ケテS. O. A. P. カ起テ朝鮮米進駐軍ノ申出ヲ嘉納スル

形式ノ下ニ朝鮮米ノ日本輸入ヲ正式許可シ得ルカ如ク仕向クルコト

ト爲スノ外ナカルベキカ換言セバ我方ニ於テ豫メG. H. Q. 及朝鮮米進駐軍當局ノ何レモカ容易ニ著ヲ著ケ得ル内容ノ料理ヲ盛ツテ用意シ之ヲ据膳トシテ彼等ニ食ハシムルコトトスルノ外ナキナリ而シテ其ノ料理タルヤ極端ナル材料不足手不足ニ加フルニ時間的制約アリ山海ノ珍味ハ愚カ口ニ入レテ見テ到底彼等ノ口ニ合ハサル底ノ苦澁ニ滿チタルモノト爲ルノ虞レ多分ニ在リ一G. H. Q. ノ日本人朝鮮人國絕對禁止ノ方針ヲ前提トシ最近西山次長ヨリ「マルカフト」ニ申入レタル朝鮮生活必需品會社ノ朝鮮人幹部數名ト其ノ米軍監理官トヲ關門等ニ招致シG. H. Q. 當局係官監督ノ下ニ我方ト朝鮮米ノ輸入促進及之カ見返リ品輸出ノ具體的實現ニ關スル會談開始ヲノ提議モ目下ノ處朝鮮ノ政治情勢ニ鑑ミ適

當ナラズトテ遂ニ其ノ容ルル所ト爲ラザリキ事ノ成否ハ
寧ロ疑問ノ餘地多シト云フベキカ
〔別紙「朝鮮米輸入促進方策案」参照〕

0411

59

(3) 臺灣對策

右朝鮮對策ニ付述ヘタル處ヲ略々援用シテ可ナルヘシ但シ
SCAPノ支那側當局ニ對スル「インノルエンス」ノヨリ大
ナルヘキニ鑑ミ正面工作モ必スシテ望ミナキニ非サルト共
ニGHQノ商的性格ニ結ヒ著ケテ專ラ考慮スルノ余地更ニ
大ナルモノアルヘシト思料スルカ如何

(4) 滿洲對策

若シ支那中央軍ノ急速ナル滿洲進駐ト圓滿ナル蘇聯軍ヨリ
ノ政權接收ノ實現ヲ見ルニ於テハ右臺灣ニ付述フル所ヲ援
用シテ考ヘ益々多ク商的刺戟ヲ利用スルノ余地大ナルヘシ
ト信スルモノナルモ差當リハ蘇聯ノ絕對的勢力下ニ在リ從
テSCAPノ威令ハ何等此ノ地ニ及ハサルモノト想定シ要
スレハ權道的工作ヲモ敢テシテ滿洲大豆誘出工作ヲ試ミル
ノ要アルヘキカ

0412

60

| 品名 | 品目 | 産地 | 方 | 時期 | 備考 |
|-----|----|-------|----|------|----------|
| 米 | 早稲 | 印度支那 | 支那 | 九一〇月 | 一名十月米手トシ |
| | 早稲 | 交支 | 支那 | 十二月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 一月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 四月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 五月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 六月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 九月 | 輸出米トシテ優務 |
| | 早稲 | カンボジア | 支那 | 十月 | 輸出米トシテ優務 |
| 玉蜀黍 | | | | 三月 | 「十月米」トシテ |
| 甘蔗 | | | | 三月 | |

各國食糧事情参考資料第一號 二二二〇二ノニ 飯田
 A、北半球
 主要農産物收穫時期

61

(5) シヤム對策
 暫クG.H.Q.當局ノ説明ニ信賴シ要スレハUSSOノ東京駐
 在員ト連絡ヲ保持シツツ「アメリカ」側ノ誠意ヲ俟ツコト
 トシテ可ナルヘキカ

(6) 佛印對策
 謂ハハ五里霧中ノ感アルモG.H.Q.情報ヲ聞斷ナク督促スル
 ト共ニ一方東京駐在ノ英側「エーヂェンツ」ヲ通シテ先
 ツ其ノ同情ヲ得テ取不取現地ヨリ然ルヘキ情報ヲ取付クル
 ト共ニ右情報ヲ基礎トシ英側權威筋ノ援助ヲモ得別途香港
 ヨリノ石炭積取船ノ九州來航ノ便トモ相率運セシメ假令若
 干ニテモ西貢米輸出ノ實現ヲ圖リ得ル如ク至急執効ナル外
 交的ワークヲ取進ムル要アルヘシ尙河内ノ燐礦石積出シニ付
 テモ同業ナル外交的ワークヲ必要トスルコト勿論ナリ

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--------|--------|-----------|---------|--------|--------|-------------|--------|----------|---------|
| 小 細 豆 | シ ア | ト コ | サイ ラス島 | ル シヤ | 太 小 | 小 小 | 甘 蔗 | 椰子 | カツ ツバ | 玉 蜀黍 |
| 小 豆 | 小 豆 | 大 豆 | 小 豆 | 太 豆 | 小 豆 | 小 豆 | 甘 蔗 | 椰子 | カツ ツバ | 玉 蜀黍 |
| | | | | | | 酒 東 | | | | |
| | | | | | | 酒 部 | | | | |
| | | 五 月 | | 四 月 | 四 月 | 五 月 | 一 二 月 | 三 月 | 四 月 | 五 月 |
| 四月 | 四月 | 六月 | 六月 | 四月 | 五月 | 五月 | 五月 | 五月 | 五月 | 五月 |
| | | | | | | | | | | |

0416

| | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|------------------|------------------|
| 甘 蜜 | 印 米 | 小 米 | 大 米 | 秋 米 | 冬 米 | 早 米 | 中 米 | 一 早 生 期 | 二 早 生 期 | 三 早 生 期 |
| 甘 蜜 | 印 米 | 小 米 | 大 米 | 秋 米 | 冬 米 | 早 米 | 中 米 | 一 早 生 期 | 二 早 生 期 | 三 早 生 期 |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

0415

RE'-0041

0287

| | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 洪 | 希 | アル | ル | 白 | 和 | 獨 | 波 | 工 |
| 牙 | 利 | カ | バ | 耳 | | | | |
| 小 | 小 | リ | マ | 小 | 南 | 逸 | 蘭 | 抹 |
| 麥 | 麥 | ア | ニア | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 七月 | 六月 | 七月 | 七月 | 七月 | 八月 | 八月 | 七月 | 八月 |

0418

4

| | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 諾 | 瑞 | 露 | 蘇 | 丹 | 普 | 奧 | 意 | 日 |
| 威 | 典 | 西 | 俄 | 瑞 | 丹 | 瑞 | 瑞 | 瑞 |
| 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 |
| 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 九月 | 九月 | 九月 | 九月 | 七月 | 八月 | 八月 | 八月 | 七月 |

0417

RE'-0041

0288

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ア元米 | | ナコニ | | 埃 | | 阿弗利 | | 葡 | | 西 | | 伊 | | 瑞 | | 埃 | |
| 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 |
| 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 |
| <p>マニトバ州 西部加奈陀</p> <p>カリフォルニア テキサス</p> <p>メキシコ プエルトリコ キューバ セントピエール ミシシッピ アラバマ ジョージア フロリダ ペンシルバニア デラウェア ニュージャージー ニューヨーク マサチューセッツ コネチカット ロードアイランド ニューハンプシャー バーモント メイン</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 七月 | 六月 | 五月 | 八月 | 八月 | 八月 | 五月 | 五月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 |

0420

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| ア元米 | | ナコニ | | 埃 | | 阿弗利 | | 葡 | | 西 | | 伊 | | 瑞 | | 埃 | |
| 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 | 小 | 大 |
| 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 | 麥 |
| <p>下 部</p> <p>上 部</p> <p>埃 及</p> <p>埃 及</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 五月 | 五月 | 四月 | 四月 | 二月 | 二月 | 三月 | 三月 | 八月 | 八月 | 六月 | 六月 | 六月 | 六月 | 七月 | 七月 | 七月 | 七月 |

0419

RE'-0041

0289

取扱注意

食糧輸入問題ノ現段階

周知ノ客年十一月我政府ヨリGHQ提出中ノ本食糧年度三〇〇
 〇千屯ノ食糧輸入要請ヲ中心トスル國民生活必需品輸入許可
 請ハGHQ當局ノ極メテ理解アル取計ニ依リ現在ニ於テハ寧
 我方要望以上ノ内容ニ依リ例ヘバ燐礦石ハ八〇千屯ニ査定増
 ノ上要求セラレ又最近ハ合衆國自體ニ對シ小麥ノ外米、大豆ニ至
 ル迄種類テ擴ゲ日本向輸出ノ追加要請セラレアル趣、華府ニ電
 請セラレ華府ニ於テ或ヒハ聯合國側ノハイボリシ一ノ裁斷ノ
 前ニ「アライド」ヲ或ハ「イン」トマツカサド「イボリ」ニ附
 ヒハ合衆國內興論ノ前ニ「マツカサド」一審議ニ附セラレ或
 ノ歸趨ヲ問フ等ノ課程ニ置カレ未ダ本格的結論ヲ與ヘラ
 ハ至ラザル段階ニ在ル次第ノ處現實ニハ、比島廻送小麥粉ノ輸
 (一) 引渡シ受クハト共ニ於テ一千屯ノ比島廻送小麥粉ノ輸
 (二) 引續キ近ク一、五千屯ノ同様ナル比島廻送小麥粉引渡シノ
 (三) 内示ニ接シ、三月中旬頃到着ノ見込ヲ以テ合衆國ヨリ二五千屯ノ
 内一〇千屯ハ袋詰米トシテ小樽ニ、他ハ散積小麥トシテ八千
 屯ガ横濱ニ、七千屯ガ名古屋ニ入港手配中ノ食糧輸入ノ具
 體的手配進捗中ナル旨

0424

| | | | | | | | | | |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 南阿弗利加小麥 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 | 玉蜀黍 |
| 五 | 六 | 一 | 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 |
| 八月 | 二月 | 二月 | 四月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 | 二月 |

0423

故ニ本食糧年度ノ今後ニ必然豫想セラルル政府食糧需給操作上ノ大穴ニ對シテ今後ノ基本背景ト爲ル食糧年度世界外ナキモナルノ今後ノ基本背景ト爲ル食糧年度世界外ナキモナルノ今後ノ基本背景ト爲ル食糧年度世界外ナキモナルノ...

(四) 及之ニ引續キ合衆國ニ對シテ夫々一〇千屯及二〇〇千屯ノ各ヨリ〇日迄ノ内ニ其ノ間ニ見ケル輸出入ノ點ナキハ非ザルノ...

RE'-0041

0292

唯合衆國自體ニ付テハ此ノ國ガ我國ノ統治責任當事國トシテ
微妙ナル國際的立場ニ立チテハ此ノ國ガ我國ノ統治責任當事國トシテ
上半期ニ六〇〇千屯ニ達スル小麥輸出ヲ計畫實行中ニ屬ス
ル底ノ進裕ト例ヘバ一〇〇千屯ニ達スル小麥輸出ヲ計畫實行中ニ屬ス
シ更ニ進裕ト例ヘバ一〇〇千屯ニ達スル小麥輸出ヲ計畫實行中ニ屬ス
リトシテ食糧輸入ノ第一ニシテ約ノ國民運動ヲ希望セシムルガ如キ
巨額ノ食糧輸入ノ第一ニシテ約ノ國民運動ヲ希望セシムルガ如キ
メテ明瞭ノ小麥作ラ合衆國ニ對シテ誠實ニ玉蜀黍ノ輸入ノ類
セシメツテハ此ノ中心トシテ已マザリノ誠實ニ玉蜀黍ノ輸入ノ類
敢テ之ガ輸入ヲ要シテ已マザリノ誠實ニ玉蜀黍ノ輸入ノ類
續クニ於テハ此ノ中心トシテ已マザリノ誠實ニ玉蜀黍ノ輸入ノ類
分可待地ニ付テハ現狀下多クノ期ナリ然レドモ爾餘ノ東洋
各期待地ニ付テハ現狀下多クノ期ナリ然レドモ爾餘ノ東洋
如シ然ラバ即チ我國ハ今ヤ三〇〇千屯ノ當得ザルコト見
ルニ實現スルガ如キトハ絶對ニ不可能ナル初ノ要請ガ境
シキニ於テ股ノ食糧對策ニ萬遺漏ナキヲ期スルコト見

0428

北東島ヨリ三、二五〇屯ノ燐石輸入第一船カ清水ニ入港シ
C L O ハ更ニ引續キ北東島ノ外ハロタ一〇〇千屯以上
ニ達スル燐石輸入ヲ許可スヘキ旨ノ限リ極メテ好望ナリ
報ニ接シ后リ玆許燐石輸入ニ當局ノ好意ノ賜トシテ十分
ニ在ル次第ニ付テハ素ヨリGHQ當局ノ好意ノ賜トシテ十分
ラ感謝スヘキモノナルト同時ニ一面如上食糧自體ノ補填對策トシ
テ特ニ燐石ノ緊急輸入ヲ計畫セラレタルモノニ外ナラサル點
ヲ銘記スヘキナリ

0427

RE'-0041

0293

是ニ於テカ取テ是計加フル迄モナキ次第ナレドモ當面ノ食糧
 對策ガ昨年来ノ危機ニ備ヘテ完遂ヲ中心トシテラクハ五月以
 降ニ襲來スルノ勢ヲ察シテ各種ノ食糧ノ網羅的ナラシメテ
 集中テ此ノ際ニ果敢ナル方策ヲ推シテ第一義トシテ國內
 動員ヲシテ積極的ニ食糧ノ確保ヲ謀ルニ當リテハ第一義トシ
 ハ目指シテ積極的ニ食糧ノ確保ヲ謀ルニ當リテハ第一義トシ
 對策ニ最モ相宜ナル格好ヲ以テ之ヲ實行スルニ當リテハ第一
 ソ至ルベキモノナルコト亦明シキニシテ此ノ際ニ當リテハ第一
 ルニ食糧ノ管理ヲ強クシテ之ヲ確保スルニ當リテハ第一義トシ
 般ノ食糧ノ管理ヲ強クシテ之ヲ確保スルニ當リテハ第一義トシ
 モ拘ラズガH Q 當局ノ好意ヲ以テ之ヲ確保スルニ當リテハ第一
 ノ外ナラザル遺憾ナカク即チ當面ノ食糧ノ確保ヲ謀ルニ當リテハ第一
 力ヲ傾キテ萬端ヲ促シテ之ヲ確保スルニ當リテハ第一義トシ
 裕的ニ食糧ノ輸入ヲ促進スルニ當リテハ第一義トシ
 更ニ一層御諒察ヲ乞フ

各糧食糧事情參考資料第二號

世界ノ食糧狀況

ニ一ニハ終連二ノ四

世界ノ食糧狀況
 小麥ニ關シテハ從來世界最大ノ生産地タル歐洲諸國ガ一九四五
 年ノ機械力及肥料ノ不足ニ依リ收穫ノ早晩ニ變ハレテ居リ且ツ人
 力ニ之等諸國ニ於テハ五十年前來ノ一大早魘ニ襲ハレテ其ノ結果英
 政府最近ノ發表ニ依レバ戰前生産高四千萬噸ノ收穫アリタルニ過
 九四五年ノ於テハ僅カニ二千三百萬噸ノ收穫アリタルニ過
 ズ、世界ノ他ノ小麥生産地タル北阿一アルゼンチン、タリニ過
 テモ同様有以テ來ノ旱魘ニ見舞フ外ノ收穫減少ラハ濠洲ニ於
 米國及加奈陀ニ於テハ戰前生産高ノ現狀ナリ收穫減少ラハ濠洲ニ於
 一方米細亞諸國ニ於テハ戰前生産高ノ現狀ナリ收穫減少ラハ濠洲ニ於
 國初、蘭印等何レモ一ニ減收ヲ見カニ朝鮮及滿洲ニ於テハ戰前
 比島、蘭印等何レモ一ニ減收ヲ見カニ朝鮮及滿洲ニ於テハ戰前
 示ス、過ギズ、更ニ輸送ノ制約ト戰災諸國ニ於ケル配給機轉ノ
 破綻ガ原因シテ現在ノ輸送ノ制約ト戰災諸國ニ於ケル配給機轉ノ

世界米麥ノ不足量
 去ル二月八日英食糧相「スミス」ハ華府ニ於テ「トルトマン」
 米大統領ト會見、世界食糧不足問題ニ關シ、協議スル處アリタル
 カ其ノ後、引續キ兩政府代表ハ約三週間ニ亘リ、英食糧相ノ携行
 ニ係ル詳細ナル報告ニ基キ、研究ヲ加ヘ、歐洲ニ於ケル疾病ト社
 會不安ヲ阻止スル爲メ、一「アナン」ク、食糧委員會ノ提唱セル「日
 一」人二千萬、千七百噸、(主トシテ歐洲)ト推定セル處ニ於ケル小
 麥不足量ヲ千七百噸、(主トシテ歐洲)ト推定セル處ニ於ケル小
 麥產國タル米、加、濠、亞、輸出割當量ハ總計千二百萬噸、(内
 米國四百萬噸)ニシテ、差引尙五百萬噸ノ不足ヲ生ジ、又米穀ニ關
 シテハ「ベヴイン」ニシテ、英外相ガ國際聯合總會ニ於ケル世界
 百噸噸ナリト言ハル。說明セル處ニ依レバ、世界ノ米穀不足ハ約二

歐洲各國ノ「カロリー」攝收量
 (米國務省二月七日發表)

緊急歐洲經濟委員會 (EMERGENCY ECONOMIC COMMITTEE FOR EUROPE)
 四千萬人以上ノ調査ニ依レバ、本年一月初現在歐洲ニ於テハ一億
 ノ以下ニテ生活ヒ、得ヌ又平均一日二〇〇「カロリー」以下
 ノノ約一億人ニ達スルモノト推測ヒラル、或ル地方ニ於テハ多
 數ノ人口僅カニ一〇〇「カロリー」攝收シ得ルニ過キ
 ヲル狀況ナリト言ハル、
 尙獨逸ニ於テハ現在平均一、三〇〇乃至一、五〇〇「カロリー」
 ハ、攝收シ居リ、歐洲大陸ニ於テ現在戰前ニ近キ食糧攝收シ居ル
 因ニ米國民ノ「カ」及「ス」エ「テ」ン「二」ノ「ミ」ナリ
 (同委員會ハ歐洲戰終了直後一九四五年六月設置、食糧、農
 業、敵國輸出、肥料、工業、發源、動力、種子、木材、其ノ他ノ
 特別目的ヲ有スル「ギリ」シ「ヤ」ル「ク」ニ「ベ」ル「ギ」
 「ン」テ「マ」ノ「ウ」エ「ベ」カ
 特命全權公使「ノ」エ「ル」
 「カ」



世界の食糧不足ト各國ノ措置
シ輸出タル米穀ニ於テハ去ル二月六日大統領ハ食糧危機救済
緊急對策ニ關スル聲明ヲ發シ本年度上半期小麥六百萬噸ヲ目標
ニ國內酒類製造用小麦ノ使用ヲ禁止シ食糧ノ輸送ニ優先權ヲ認
メ國內ニ於テ米穀ヲ常食ノ一部トスル十三州ニ對シ其ノ消費ヲ
制限シ之カ餘剩米ヲ極東及歐洲ニ向ケ輸出シ更ニ脂肪ニ億二千
萬封度、酪農製品五億封度其他肉類十億封度ノ輸出増加ヲ計ル
ト共ニ凡ユル機會ニ於テ食糧ノ消費節約ト輸出促進ニ關スル國
民ノ協力ヲ要請シ又加奈陸ニ對シ三〇%ノ消費節約ト輸出促進ニ對シ夫々
一〇%ノ小麦輸出増加ヲ要請スル等世界的飢餓防止ニ努力シツ
ツアリ
英國ニ於テハ先ツ本年上半期二十五萬噸ノ小麦輸入削減ニ同意
ヲ與ヘ二月五日國內ニ於ケル食糧配給削減ヲ發表シテ油脂ヲ一
週七「オンズ」ニ「パン」ノ消費ヲ戰時中ノ配給量ニ引戻シ酒
造用小麦ノ使用ト家畜用穀類ノ使用ヲ削減スルト共ニ食糧購入
資金節約ノ見地ヨリ米穀ヨリノ映畫、煙草、「ガソリン」ノ輸
入制限措置ヲ講シツツアリ
濠洲及加奈陀ニ於テモ夫々英米兩國ト同様ナル措置ニ依リ食糧
ノ對外輸出増加ニ最大ノ努力ヲ拂ヒツツアリ

0433

尙國際聯合總會ニ於テハ米、英、佛、支、蘇ノ五ヶ國ノ共同提
唱トシテ全世界ノ食糧保全ト適正配分ヲ主張セル決議案ヲ二月
十四日滿場一致採擇セリ
對日食糧供給問題
「トルーマン」米大統領ハ去ル二月七日ノ記者團會見ニ於テ日
本ノ食糧問題ニ關シ
「日本ニ於ケル米作ハ平年作ニ比シ一五%方下廻リ居リ而モ
日本ハ從來米穀消費量ノ一五%ヲ輸入シ居リタリ米穀ハ先ツ
聯合國ヘノ食糧供給ヲ優先的ニ取扱フガ爲敵國ノ食糧ニ對シ
テモ其レカ自ラ招イタ結果テアツテモ米穀ハ敵國ヲ餓死スル
マニニ委ネルコトハ出來ナイソレハ米穀ノ理想ニ背馳スル」
ト言明シ
又農務省ハ
「日本ノ都市住民ニ對スル食糧供給ハ既ニ戰前ノ一日二千三
百「カロリー」ノ半分以下ニ減少シ生命ヲ維持スル爲メ必要
ナル最低量ヨリ遙ニ下廻リ居リ何等カノ非常手段ヲ採ラザル
限り今後益々減少スルモノト豫想セラレ一九四六年度中多量
ノ食糧輸入ヲ行フコトノミカ日本ニ於ケル食糧危機ノ唯一ノ
打開策ナリ」
ト述ナル處アリ

0434

RE'-0041

0296

以上ニ依リ米側カ我方ニ對シ食糧ヲ供給セトノ意アルハ明白ナルモ世界的食糧緊迫ノ現狀ニ於テ食糧供給ノ時ト量ノ問題ハ極メテ注目ニ値スヘシ即チ國側ニ對テハ米大統領ノ言明ノ如ク先ツ聯合諸國ヘノ食糧供給ト解放諸國救済ヲ優先的ニ取扱ヒ居ル處運東方面ニ於テハ又加ヘ「アムステルダム」ニ依ル食糧供給以外ニ尚百三十五萬噸ノ輸入ヲ必要トシ比島ニ於テモ米穀生産ハ約五十萬噸減少シ現在米國ヨリ多量ノ輸入ヲ行ヒツツアルモ本年度尙不足ヲ告ケ爾印ニ於テモ米穀生産五十萬噸減少シ（一九四一年ニ比シ）シ戰前ニ於テ約七百萬噸ノ餘剩米ヲ海外ニ輸出シ居リタル「ビルマ」「シヤム」及佛印ニ於テモ輸出能力ハ殆ト皆無ニ近ク印度ニ於テモ米穀生産減少シ「平年」作ニ比シ一二乃至一五％減シ「ビルマ」方面ヨリ供給ナキ爲メ目下「インド」ラズ「洲」中心トスル各地ハ飢餓ニ當面シ居リ茲數ヶ月ニ多量ノ輸入ヲ必要ト言ハル（二月十日米農務省發表）

（印度 THE COMPTROLLER OF INDIA MERCHANT CHAMBER 穀類 三百萬噸輸入ヲ總督ニ要請！（テロ一電二月十日））

斯ノ如キ極東ニ於ケル惡條件ハ歐洲及北阿（北阿二百萬噸輸入必要）ニ於ケル食糧危機ト相俟ツテ我方ノ食糧輸入ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノト思考セラル

0435

食糧輸入情勢を中心として觀たる食糧施策關係上
累積する惡條件 (一) (二) (三) (四) (五)

○ 本來的なもの
 (一) 世界規模の未曾有の食糧不足
 (二) 敗戦國に對する「インド」「スロイ」「及」「イン」「フィリ」「オリ」「タイ」の制約
 (三) 眞珠灣事件以來比律賓屠殺等の記憶未だに薄れず世界輿論特に「アメリカ」の輿論の「アン」「ア」「ボラ」「ブル」なこと

○ 後發的なもの
 (一) G.H.Q.の日本統治が責任回避の間接的內面指導方式を採り表見的には日本人民にG.H.Q.が政府の批判的立場に終始して居るが如き印象を與與寧ろ政府に協力せず同じく批判的立場をのみ執ることが所謂「デモクラシー」クなるかの如き誤解を與へて居ること

(二) U.S.に於ける五月の石炭争議勃發に伴ふ瀝青炭の減産はさなきだに戦争中の「オ」「イ」「ヴァ」「ア」「ロ」「イ」「ド」の結果食糧集積食糧の港輸送に隘路を形成しつゝある鐵道輸送に阻礙を生じ續いて五月二十三日二十五日鐵道罷業騒ぎがあり更に又六月十五日を期して海運罷業勃發の懸念があり此の如き輸送上の惡條件の續發

要保存
 身存



はUSよりする六月の最も重要な時期に於ける食糧輸出の實
 行に重大な暗影を投じてゐること
 (三) USに於ける一九四五年冬小麦の收穫が八二三、一七七千
 ヲシエルで極めて豊作であつたのに對し五月十日の一九四六
 年冬小麦の收穫豫想は七四二、八八七千ヲシエルと見込ま
 るゝに至り今後の輸出情勢に暗影を投ずるに至つたこと
 (四) 輸入食糧の配給レリーズ發出に暗影を投ずるに過ぎぬ
 國民の食糧自給上の努力を最後のにカヴァイするに過ぎぬ
 前を堅持してゐること
 若千の
 輸入量の減少も情勢に有利なる
 を見越せる情勢あり

食糧輸入情勢の利用すべき條件 (一) (二) (三) (四)

- 一 生糸輸出を中心とする終戦後の輸出超過の數字
- 二 棉布其他織維製品類の手持豊富であると共に輸入棉花を以てする出来上り棉布の見返り期待可能なこと
- 三 USOO其他アメリカ商人の活動舞臺の強さるること
- 四 GHO當局の華府に對する現地イデオロギイ
- 五 暹羅の同族率の保持、戦争中のイヤーマーケットを金に換する
 手段を考へ置て希望する、共に前記見返り織維品に魅力を感じ、其の
 若干の余剰米、對日送出し特別のイニシアチブを考へて居ること

21/8/4





其の他の外國方面事情
 (一) 東洋各期待地域の終戦を契機とする食糧輸出事情の急激なる
 變貌(特に朝鮮の輸入國顛落)
 (二) 加奈陀、臺灣、亞爾然丁等に就ては何等の商的手懸りをも有
 せぬこと
 (三) 日・米の日本に對する冷峻な空氣
 (四) ソヴェートの冷酷極まる態度(滿洲大豆に關する絶望的情勢)
 國內事情
 (一) 寧ろ共產黨的暴力、脅迫秩序のブリツェールと警察の終戦を
 契機とする急速な無力化
 (二) 終戦を契機とする中央政府の無氣力化及依然たる各官廳の暴
 走(なかれ、地方兩者の責任の擦り合ひ)
 (三) 最近の政局の混乱
 (四) 七〇%黨に止まつた二〇年産米供出情勢の頭打ち
 (五) 各政黨方面の根柢なき放送
 (六) シヤナリズムの結果無責任暴露記事等の氾濫
 (七) 農業會方面の無反省、無自覺
 (八) 所謂赤字搬出計畫實行の限度に來たこと
 (九) 計畫的肥料生産の計畫阻礙
 (十) 化學肥料生産の計畫阻礙
 中朝鮮人中國人特に台湾人の經濟攪乱

食糧管理

富面の食糧対策試案 (三十一、五三二)

一 機構的対策

- (一) 國民的基盤に立ち強力を政治力を有する内閣の確立
- (二) 農林大臣が内務大臣を兼ねること(要すれば農林、内務、兩省の統合を断行すること)
- (三) 食糧管理局の食糧騰昇格と共に其の権限を魚類、蔬菜等の生鮮食糧品、罐詰、調味食品類の配給一切に及ばしめ食糧廳長官の處權を全食糧品の生産、保管、輸送の部面に迄汎く及び得る如くすること
- (四) 食糧廳人事に就ては天下の人材を網羅すること
- (五) C. I. O. 貿易廳、食糧の食糧輸入工作機構を重點的、能率

的、総合的に組替ふること

- (六) 地方長官、經濟部、警察部長等の食糧行政の巧拙に基く信實必罰人事を敏速に断行すること
- (七) 単位農業會の急速な民主化を断行すること

二 技術的対策

A 積込面

- (一) 爲替米制度の採用
- (二) 赤字縣外搬出實施を中心とし警察の果斷な協力
- (三) 纖維品・鹽・肥料の確實相當量の「バター」放出
- (四) 一週五日勤務制の實施を裏付とし身邊自耕の徹底的汎行
- (五) 甘藷の徹底的早喰



内 麥類の徹底的早喰

出 輸入食糧配給「レリース」の早期確保工作（G H Q各階層に對する緊密不斷の接觸と情報提供）

内 主として生鮮食糧品の保存・貯蔵改善方策の實施

内 鹽・油脂・麩・燐礦石の輸入促進

内 春馬鈴薯の強力を集荷

出 鯨・鰯・鰯、柔魚等大家魚類の急増産集荷

出 舊日本軍放出食糧等隠匿食糧の徹底的究明特に舊軍事施設附近供出不良村落の徹索

出 未利用食糧資源の集荷活用

B 消費面

(一) 産業勞務加配米の査定及其の整理・縮減

(二) 「働かざる者は食ふべからず」の線に沿へる配給基準の合理化

出 都市流入人口の阻止並に都市人口の計量的食糧緣故疎開

出 教育施設の一時的休止

出 農村消費節約並に郷土食糧勸励國民運動の展開（特に國民學校・佛寺等の施設利用）

内 配給辭退等消費を弾力性の活用

出 闇市場の徹底的取締り

出 幽霊人口の徹底的摘發と其の防止

出 高級料理店の休止

- (十) 警察廳急米の原則的廢止
- (九) 麥酒等醸造の中止
- (八) 計量的配給遞延方策（配給間隔日數の短縮を前提とす）
- (七) 少量食糧の效率的攝取方法の提唱
- (六) 朝鮮・台湾人の強制的配給